

2018年秋学期の全時間訓練のための  
メッセージアウトライン

主題：  
中心的なビジョン

メッセージ 4  
肉体における神の現れ

聖書：I テモテ3:15-16. ヨハネ1:1, 14. コロサイ2:9. 啓21:2, 10-11

- I. 偉大な敬虔の奥義とは、神が人となったのは、人が神格においてではなく、命と性質において神となるためであり、それは団体の神・人を生み出して、肉体における神の現れとならせるためです——ローマ8:3. 1:3-4. エペソ4:24。
- II. 神の現れは最初に、肉体における神の現れとしてキリストの中にありました——I テモテ3:16. コロサイ2:9. ヨハネ1:1, 14:
- A. 新約聖書は、神の御子が肉体と成ったとは言っていません。それは神が肉体において現されたことを啓示します——I テモテ3:15-16:
1. 神が肉体において現されたのは、御子としてだけでなく、神全体（父、子、霊）としてです。
  2. 肉体と成ったのは、神全体であって、神の御子だけではありませんでした。このゆえに、肉体と成った神であるキリストは、肉体において現された神全体でした：
    - a. 肉体と成った段階での彼の務めにおいて、キリストは無限の神を有限な人の中へともたらしました。キリストの中で、無限の神と有限な人は一となりました——ヨハネ8:58. 12:24。
    - b. 肉体と成ることを通して、神聖な合併、すなわち、神聖な三一において神が相互に内住し、一として共に働くことが、人性の中へともたらされました。ですから、キリストは三一の神と三部分から成る人との合併です——14:10-11。
- B. 神である言は肉体と成りました——1:1, 14:
1. 言である神は部分的な神ではなく、神全体（子なる神、父なる神、霊なる神）です。
  2. 言は神の定義、説明、表現です。このゆえに、肉体と成った神、すなわち、肉体において現された神は、肉体における神の定義、説明、表現です——18節。
- C. キリストの中には、神たる方（神格）の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます——コロサイ2:9:
1. 「神たる方の全豊満」は、神格全体、神全体を指します。
  2. 神たる方は、父、子、霊から成り、神たる方の豊満とは、父、子、霊の豊満であるに違いありません。

3. 神たる方の全豊満が肉体のかたちをもってキリストの中に住んでいるとは、三一の神が彼の中に具体化されていることを意味します——ヨハネ14:10。
4. 神たる方の豊満の具体化として、キリストは神の御子であるばかりか、神全体でもあります。

**Ⅲ. テモテへの第一の手紙が示しているように、かしらとしてのキリストご自身だけが肉体における神の現れであるだけでなく、キリストのからだ、また神の家としての召会もまた肉体における神の現れです。これが敬虔の奥義です：**

- A. 16節の「敬虔」は信心深さを指すだけでなく、召会における神の生活、召会において命である神が表現されることも指します：
  1. キリストと召会は敬虔の奥義であり、肉体において神を表現します。
  2. 召会生活は神の表現です。ですから、敬虔の奥義は正常な召会生活です——16節。  
I コリント14:24-25。
- B. 神は召会（神の家またキリストのからだ）において、肉体における拡大された団体の表現として現れます——エペソ2:19. 1:22-23：
  1. 肉体における神の現れは、キリストが地上にいたとき、彼と共に始まりました——ヨハネ14:9。
  2. 肉体における神の現れは召会と共に継続します。召会は、肉体における神の現れの増加、拡大、複製です——I テモテ3:15-16。
- C. 召会がテモテへの第一の手紙第1章から第3章に書かれたことにしたがって扱われるとき、召会は地上における神の行動のための生ける神の家として、また真理の柱また基礎として機能し、キリストの実際と彼のからだを担います——15節. エペソ5:32：
  1. そのような召会は肉体におけるキリストによる神の現れの継続となります。すなわち、キリストが神の現れとして召会から生き出ます：
    - a. これが新約の肉体と成る原則にしたがった広義での神が肉体において現されることです——I コリント7:40. ガラテヤ2:20。
    - b. 肉体と成る原則とは、神が人の中へと入り、ご自身を人とミングリングすることが、人をご自身と一にするためであるということです——ヨハネ15:4-5。
  2. 肉体と成る原則の意味は、神性が人性の中へともたらされて、人性と共に働くということです——I コリント6:17. 7:40. I テモテ4:7。

**Ⅳ. 最終的に、神は新天新地において、手順を経て究極的に完成された三一の神の究極的な団体の表現として、新エルサレムにおいて現されるでしょう——啓21:1-2, 10-11：**

- A. 肉体における神の現れとしての召会は神の家ですが、新エルサレムは神の都となります。それが表徴するのは、新創造の中の神の現れとしての新エルサレムが、召会の拡大と究極的な完成となって、永遠に神を表現するということです——10-11節。
- B. 新エルサレムの際立った特徴は、それが神の栄光を持っていることです。都全体は神の栄光を帯びていますが、それは都を通して輝き出る神ご自身です——11, 23節。
- C. 三一の神、すなわち、神聖な豊富の源としての父、神聖な豊富の具体化としての子、神聖な豊富の実際としての霊は、新エルサレムの三一の表現であり、永遠にわたる

神の究極的に完成された現れの栄光に満ちた最高の表現となります——18-21節. 2  
2:1-2。

© 2018 *Living Stream Ministry*